令和6年 12 月 25 日発行

# 学校だより

第 10 号

江戸川区立瑞江第三中学校

〈 教 育 目 標 〉

1 自ら学んで、自己を高める生徒 【知性】
2 人を大切にして、共に生きる生徒 【敬愛】
3 心身が健やかで、活力のある生徒 【健康】

## 『君の可能性』

校 長 山 口 孝

今年の流行語大賞は、「**ふて**(きせつにも)**ほど**(がある)」。昭和にもどろうということではありませんが、社会の変化の中で不易の部分は何か、を考えさせられたように思います。私の昔話で恐縮ですが、若かりし頃、道徳の時間や学級活動の時間に、『君の可能性』(斎藤喜博著)という本をクラスの子供たちと読みました。学校で学ぶことはどういう意味があるのか、人生における仕事の意味(木の声が聞こえる大工さんの話、駅の便所掃除の人の話)などが書かれていました。一番心に残っているのは、死刑囚になったあとに短歌の才能に目覚めた島秋人の話です。

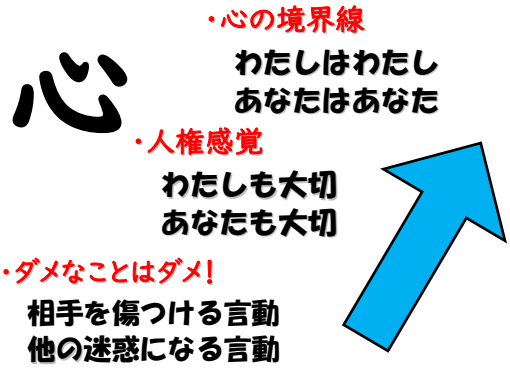
島秋人は、幼いときに母親が他界。父からも冷たくあつかわれ、不幸な境遇で育ちます。低能児だとばかにされ、性格はひねくれ心はすさんでいきます。衝動的な行動をくり返し、けんか早くなり、盗みを働くようになります。ついには盗みに入った家の人を殺してしまい、33 歳の若さで死刑となった人です。

死刑囚となった牢屋の中で、島秋人は変わります。ほめられたことなどなかった小中学校時代の記憶の中で、ただ一回だけほめられたことを非常になつかしく思い出します。中学 1 年生のとき、担任の美術の先生が、「君の絵は構図がよい」と言って、みんなの前でほめてくれたことです。島秋人は、その教師に手紙を出します。すると心温まる返信とともに、奥さんの手紙も同封されており、短歌が3首そえられていました。

その時、「短歌もいいものだな」と思い、短歌を作り出します。短歌を新聞の歌壇に投稿すると、有名な歌人の目にとまり、やがて何回も賞をもらうようになります。その歌人から頭脳が明晰であり、感性が鋭敏であるとまで言われるようになります。しかし、やがて死刑執行の日がやってきます。そして、島秋人の死後、彼の歌を愛する人たちによって島秋人の歌集『遺愛集』(死んだ人が、生前に大切にしていたもの)が出版されるのです。

人間は誰にでも両面性があり、一人の人間の内に悪もあれば善もあります。それが普通です。子どもの欠点や直すべき点ばかりに目が行くと、子供はますます悪い方向に転がっていく。子どものよい点を見つめ、子どもの可能性を少しでも引き出そうとするなら、子どもばかりではなく私たち教師も成長のレールに乗ることになります。教育とは、生身の人間が生身の人間と相対することで、共に成長していく過程です。きれいごとだけでは済まないものでもあります。

この季節は、毎年3年生と面接練習をします。素晴らしい経験やよい発想をしているのに、気付いていない生徒が多く、もったいないと思います。こんな冬休みはいかがしょう。少し気持ちを楽にして、SNSの量を少し減らし、みんなのために大掃除でからだを動かしてみる。心と体は一体なので、あなたの心の奥底に眠っていたよい感覚や発想が目覚めてくるかもしれません。そして新年になったら、初詣に行って、今年も頑張るぞ!と誓う。その気持ちを込めて書初めを書き上げる。

冬休みは、1年が終わり新たな1年が始まる節目です。この節目を大切にして、自分づくりにつながる自分のよい面を考え、それを大切に育てていけるようにしてほしいと思います。自分の可能性が広がる冬休みにしてください。

最後になりますが、今年一年間、多くの方々にご支援いただき誠にありがとうございました。子供達、保護者の皆様、地域の皆様、また瑞江第三中学校にご縁のあった全ての皆様に心より感謝申し上げます。 (長文になり申し訳ありません。)